



## 母校の教壇に立って... ～教育実習生が来ました～

5月13日(月)から今年度の教育実習期間となり、卒業生10名(社会科4名、数学科2名、理科4名)が2週間あるいは3週間にわたり教育実習を行いました。初めて教壇に立つという緊張感、そして母校での実習というプレッシャーもあったことだと思います。私自身もかなり昔に本校での教育実習を行いました。チョークを持つ手が震えたあの時の緊張感は今でも覚えています。



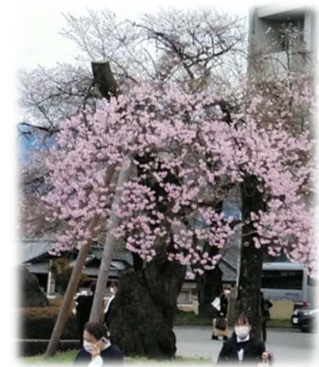
最近の教育実習生は、ICT機器を効果的に使いながら生徒に対して分かりやすい授業を行うことを心掛けているようですが、反面、教えることの難しさも実感したのではないのでしょうか。昨今、教師のなり手不足、教師になることを敬遠する学生が多くなったとの話をよく聞きますが、今年度も「若手教師×教育実習生



～本校若手教師が語る教師の魅力～」を行い、教師としてのやりがいや魅力を教育実習生に熱く伝えました。このような取組み等も参考にして、一人でも多くの学生が「未来を創造する」ことに繋がる“教師”の道に進んでくれることを期待しています。

## 生徒を見守り続けてきた“高松桜”、寿命を全う...

生徒昇降口正面にあり、これまで多くの飯田高校生の登下校を見守り続けていた本校のシンボルの一つ、通称“高松桜”の巨木が5月末の大雨により根元から倒れました。樹齢は不明ですが、幹の周囲が2メートル以上にもなっていることから推測すると、かなり以前に植えられたものと思われ、これまで毎年4月には満開となり多くの新入生を迎えてくれていました。ここ最近では幹にコケが生えるなど腐食が進みそろそろと心配していましたが、今年の入学式では弱々しい枝になんとか頑張ってお花を咲かせてくれて



いました。こうなることを想定して同窓会では、数年前から“2代目高松桜”を育成してくれており、一昨年中庭に移植したところです。これからは、“2代目高松桜”が本校の新たなシンボルとして大きく育ち、飯田高校生を見守ってくれることでしょう。



2代目高松桜

